

ジャパンクラシックベンチプレス選手権大会

2017年10月28-29日

写真・報告：IPF国際審判

物江 毅

全国から330名の選手が集い、栃木県真岡市フォーシーズン静風の特設会場で今年度のJCBP大会が開催された。二面開催であったが、IPF認定品となったブラック及び丁寧な拵えのプラットフォームという国際大会も開催可能なステージで二日間にわたり熱戦が展開された。

私は大会直前に来場できないJPA阿南技術委員長から、大会実行委員長代行を命じられ、殆どB面に張り付いてGood lift操作と写真撮影に従事した。

B面報告

今大会、女子選手のエントリーが48名あり、10/28初日B面の第一セッションABCの三グループで試合が遂行された。

Aグループ 47kg級&57kg級

47kg級M2に出場した宮本智子選手(ヴィテンのいち)は全日本大会復帰戦であったが、強さは健在でM2日本記録となる82.5kgで優勝、一般で優勝した選手の記録を20kgも上回る圧勝であった。

57kg級では一般クラスで福島未里選手(F・T・GYM)が95kgで優勝。第三試技で挑んだ日本新105.5kgは残念ながら失敗であったが、こちらも圧勝。M1優勝は伊藤千帆選手(K'sGYM)80kg、M2では酒巻知子選手(ストロングライン)72.5kg、M4では今大会女子選手最年長の伊川玲子選手(越谷市民プールTR)が55kgで優勝した。

Bグループ 52kg級

こちらも47kg級同様M2の木場恵美子選手(湘南BP)が強く85kgで優勝。一般で優勝した藤原のどか選手の77.5kgを上回る強さを見せてくれた。同級2位には10年ぶりくらいに全日本大会出場の伝説の強豪・岩城千尋選手(新潟TC)が75kgに入った。一般とM1にダブルエントリーした西川亜紀子選手(チーム鉄腕)はアームレスリングで日本有数の強豪である。今回記録は72.5kgで、一般で2位、M1で優勝という結果であった。同級M3では石橋愛子選手(ストロングライン)が三試技とも





成功、60kgで優勝した。

Cグループ 63kg級以上

63kg級一般は実力者が揃い、大変見応えがあった。ただ一昨年の全日本B P及びJ C B P大会の同級覇者・石橋茜選手(ストロングライン)の力が抜きんでており、97.5kgで優勝、第三試技では105.5kgの日本新に挑んだが惜しくも失敗であった。以下、2位は山下彩選手(K's GYM)90kg、3位奥谷由香選手(K's GYM)87.5kg、4位にはM2とダブルエントリーした石田みどり選手(サンプルイFC)85kg(M2優勝)、5位同記録体重差で上田早穂選手(ちからこぶ)、

6位田島瞳選手(BIG FIVE)77.5kgという結果であった。上田さんと田島さんはいずれも第一、二試技を落とし、第三試技でやっと生還、いずれも国内でも指折りの強豪であり、今後は是非とも巻き返していただきたい。

72kg級はM3とダブルエントリーしたBPの女王・澤千代美選手(パワーハウス)が、84kg級では徳武恵美選手(TXP)が段違いの強さを見せてそれぞれ圧勝。+84kg級でも一般とM1にダブルエントリーした小松麻実選手(有光自動車)が優勝した。

D・E・Fグループ 66kg級

一般とJRとのダブルエントリー、Eグループで試技をした本堂正達選手(個人)は、三試技成功で第三試技は175kgのJR日本新まで記録を伸ばした。当然JRでは圧勝である。イケ面の本堂選手はとて 170kgを上げる外観には見えない。F.Pも142.13と素晴らしかった。

Eグループの結果を睨みながら一般のFグループの試技が開始された。昨年の同大会覇者・リトアニア世界B P大会同級王者の福田将志選手(ストロングライン)は、安定した試技で157.5 - 165-167.5に成功し暫定3位





で試技を終えた。本堂選手よりも体重が軽い久米亮平選手(個人)は第二試技 165kg成功後、175kgにU Pし逆転を狙ったが失敗4位となった。このクラスで指折りの強豪斉藤敬太選手(BURST LIMIT)は160-170に成功後、第三試技 177.5kgを申請、力からすると決して無理な重量とは思われない。試技が開始された。177.5kgのバーベルはややスムーズさを欠きながらも最後まで押し切られた。判定は主審が白、両副審が3の理由で赤、腰の浮きと思われた。本堂選手の優勝が決まった瞬間である。

10月29日

G・H・Iグループ 83kg級

一般は、福島勇輝選手(F・T・GYM)と鈴木優選手(パワーライン)とのガチンコ対決となった。福島選手は190-200と成功したが、腰の付きがやや不安定で、かつ体重も80.75kgと軽く、完調ではない様に見受けられた。一方の鈴木選手は195-202.5と順調に成功、調子はよさそうである。1.15kg体重が軽い福島選手は第三試技202.5kgを申請、これを必死に押し上げ成功。鈴木選手は205kgに挑み途中で止まってしまう、福島選手の優勝が決まった。試合後「今できる最善を尽くしました!」と福島さんは語っておられた。児玉大紀選手の後継者と目される福島選手、練習不足な中で苦勞して栄冠を勝ち取った。価値ある勝利である。この一般クラスは7位まで180kgを超えるという近年まれにみるハイレベルであった。人気者松永浩二選手はMCもこなし、試合でもパフォーマンスを披露してくれたが、肩の故障などで完調には遠く、172.5kgで9位という結果であった。

A面報告

A面については風張徹選手が撮影&編集しユーチューブにUPしたビデオ映像を拝見しての報告とさせていただきます。とても綺麗な映像で、大会の雰囲気伝わってきた。

10月28日

59kg級

絶対王者の東坂康司選手(K's GYM)に、愛知の強豪・小笠原泰司選手(パワーライン)、TXPで練習をしている井上卓選手(個人)、藤田雄二選手(ストロングライン)らが挑むという試合形式になった。藤田君は第一試技145kgを慎重に押し上げ成功、第二試技150kgもさほど重くなく押し切ったが腰が浮いたと見え両副審が赤判定。井上選手は147.5-152.5と順調に成功。小笠原選手は第一試技155kgを押し切ったが、藤田君同様腰の浮きを撮られ両副審が赤判定、第二試技で同重量を落ち着いて決めた。東坂さんは、第一試技157.5kgに成功したが、あまり軽いという印象ではなかった。第二試技160kgは途中で止まり失敗。

勝負の第三試技、藤田君は暫定3位を狙い152.5kgに挑むが失敗。小笠原さんは160kgに挑み渾身の力でこれを押し上げ成功、暫定トップに立つ。体重が小笠原さんよりも重い東坂さん、井上選手は162.5kgに挑むも押し切れず、小笠原さんの優勝が決まった。

74kg級

今回も世界BP界の絶対王者・児玉大紀選手と鈴木佑輔選手のガチンコ対決となった。

鈴木さん200-205をととても綺麗なフォームで軽く成功、まだ余裕があるように見受けられた。一方児玉さんも202.5-212.5を簡単に成功、同じく余裕の試技で





ある。

第三試技鈴木さんは 215kgを申請、第二試技までと違いやや受けに失敗したのかプレスコールに対してフライング気味にプレスするが、直ぐにバーは止まり失敗。

児玉さんは日本記録となる 221kgを申請、こちらも押し切れず記録は 212.5kg止まりであった。優勝児玉さん、2位鈴木さんに続き3位となったのは第三試技で 175kgに成功した野村晃史選手。かつてジャパンオープンB P大会で児玉さんに次ぐ2位が指定席であった実力者がJ C B P大会に戻ってきてくれた。本当に嬉しいことである。

10月29日 93kg級

毎回大接戦をする長谷川直輝選手 (K's GYM 横浜) と高取征爾選手 (ゴールドジ

ム名古屋金山) の中に齊藤学選手 (苦小牧マッスルクラブ) が加わり、三つ巴の戦いとなった。

齊藤選手は第一試技 195kgを軽く成功、第二試技 205kgはやや二段上げとなり危なかったが成功した。高取選手は第一試技 207.5kgに綺麗に成功したが、第二試技 215kgは途中で止まり失敗。長谷川君は第一試技 205kg、第二試技 215kgを軽く上げるのだが、胸の留がやや甘く、主審のプレスコールにややフライング気味でプレスしているようにビデオでは見受けられた。森川主審は二試技とも赤判定であったが、両副審が白で2試技とも成功。

第三試技で齊藤さんは 207.5kgを申請、これを頑張って押し上げ成功暫定2位で試技を終えた。高取さんは重量増加せず 215kgに再挑戦、第二試技同様途中で潰れ失敗3位となった。優勝を決めた長谷川君は日本記録の 220.5kgを申請、観客が固唾をのんで見守る中試技が開始されたが、途中で止まり失敗という結果であった。

105kg級

このクラス常勝の武田裕介選手 (TXP) が今回は 120kg級にエントリーしたため、混戦が予測された。

優勝はM2とのダブルエントリーの伊藤智選手 (K's GYM) で 212.5kg、長年故障に苦しんできたがM2になってからの一般クラスの優勝、本当に素晴らしいことだと思う。

2位はこのクラス毎回上位入賞の定連・金井誠基 (プレスタ)、第一試





技 207.5kgに成功後、体重差逆転を狙い第二、三試技で 2125kgに挑むも失敗。3位は山下保樹 (K's GYM)、190-197.5 と順調にとり、第三試技では 2位を狙い 210kgに挑戦し押し切ったが両副審が赤判定 (腰の浮きか?) で失敗であった。

120kg級

105kg常勝の武田裕介選手が 210-220 に成功、優勝決定後の第三試技では日本記録の 228kgに挑んだがあと一步押し切れなかった。古賀宏和選手 (BEAST GYM) は 205-207.5 と

堅実に成功し、第三試技で挙げれば暫定 2 位となる 215kgに果敢に挑戦し成功、見事なチャレンジ精神であった。M2 とのダブルエントリー湯浅正信選手 (THE CHAMPIONS) が 205-215 とこちらも軽く取り、後述するがルール上問題がある 220.5kgの M2 日本記録に第三試技で挑戦したが押し切れず 3 位という結果となった。

+120kg級

ビデオが UP されておらず、結果のみ報告させていただく。

一般は、永田聡選手 (THE CHAMPIONS) と石井孝敏選手 (たいそうべや SC) の昨年の東京大会同様のガチンコ対決が期待されたが、石井さんが欠場で永田さんの一人旅となった。永田さんは 220-237.5 (日本新) と順調に成功後、第三試技では大台の 240kgにも成功、ダントツの優勝であった。2 位は 190kgで一宮正博選手 (TG フリーウェイト)、3 位は海老田旭選手 (TXP) 167.5kgという結果であった。

ここで大会技術委員長代行の立場で報告させていただく。今大会、試合自体は大変に盛り上がったが、一部ダブルエントリーの選手の重量申請について、AB 両面の陪審員、進行補助、MC に下記の技術委員会通達が徹底されておらず、結果的に複数の選手に大変ご迷惑をおかけしてしまい、大変申し訳ない事となった。



以下に本年1月の技術委員会通達を貼り付ける。

以下引用

技委発第16-1号通達 平成29年1月1日関係各位技術委員長 阿南 喜裕(公印省略) ルール変更に関する通達
現在運用されているJPAルールを下記のとおりに変更します。今回の通達に関する運用は2017年1月1日からとしますので、ご理解の上、周知徹底をお願い致します。

日本記録の取り扱いに関して

- ① 各種全日本選手権では、大会タイトルの記録更新は500g単位、それ以外のタイトルでは通常の2.5kg単位での更新とする。
- ② 上記①に併せて、ダブルエントリー等で複数カテゴリー(一般とその他(ジュニア、マスターズ等)との併催時)にエントリーする際は、一般カテゴリーの新記録時のみ、端数500g単位での記録更新を認める。
- ③ ただし、上記②の場合、一般カテゴリー以外の新記録時は、通常通り2.5kg単位での記録更新を認める。

引用終わり

つまりダブルエントリーの場合、一般の日本記録挑戦以外は500g単位の端数での挑戦は認められないという事である。このレポートを書いている時点でJPA技術委員会から、JCBP大会の正式結果が発表されていないが、11月上旬現在で、技術委員会で今大会の結果をどのように判定するか検討中のためである。

色々な事があった本年のJCBP大会であるが、2019年5月日本開催予定の世界BP大会(F&N)に向けて、今後の日本BP界の更なる発展を期待したい！！

